

株式会社ジェイコムイースト 横浜テレビ局

第 19 回 2014 年度 放送番組審議会 議事録

2014 年度の放送番組審議会は、2015 年 2 月 10 日(火)に J:COM 横浜テレビ局で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

ご出席

嶋田 昌子様 藤江 喜朗様 三浦 順治様
三上 喜美子様 三代 裕子様

事業者側から営業の現況報告および J:COM チャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：藤江委員長

(歴史番組における制作側と歴史家解釈の相違)

委員 歴史番組「歴史を歩く」では、テレビ取材で語る内容と歴史家の通説が異なる場合は、どう処理するのか。歴史ものは、テレビで放送するのは難しいと感じる。

(『浜降祭』特番の裏方取材)

委員 「浜降祭」は、現地で視たい素晴らしい祭りである。祭り特番では、裏方の模様や経過を取材したら面白い。

(イベント情報の収集方法、災害現場のレポーターの服装、11chのドキュメンタリー番組)

委員 10 年ほど前から番組審議委員を務めているが、年々、番組の中身が充実してきている。内容は、大手民放にも遜色ないと思う。

民放に埋もれてしまわない為にはどうしたらいいかというと、地域密着しかないのではないか。民放とはこの点で差別化されたほうがいい。

地域のイベント情報の収集は、どうやっているのか。

台風情報番組での女性レポーターの服装は、場違いではないか。ヘルメットや作業着などの防災装備をしてレポートすべきでは。

11ch では、長いスパンに渡って撮影するドキュメンタリー番組は制作しているのか。

事業者 情報収集については、様々なネットワークを張りめぐらせているが、まだまだ不十分であると感じている。

現行では、藤沢、茅ヶ崎エリアでは、会社として参加しているロータリークラブ、商工会、観光協会から情報を仕入れている。

横浜エリアでは、元町 SS 会、中華街、馬車道はじめ地元商店会の単位からも情報をいただいている。横浜市の記者クラブからの FAX 案内なども参考としている。

ドキュメンタリー番組の制作は、11ch では特定の素材があった際に、年間1、2本程度制作している。

(J:COM のカスタマー対応)

委員 タブレットは縁がないと思っていたが、局の操作指導を受けて使えるようになった。

J:COM は、テレビで困った時の電話対応が親切で、すぐに駆けつけてくれる身近で有難い存在である。これからの高齢化社会の中では、全国放送もいいが、地域密着のチャンネルはもっと身近になるのではないか。

家庭内では、「横濱ツウ」「駅なび」などの地域紹介番組を通じて、地元のグルメを知るきっかけになっている。

(J:COM チャンネルの周知、番組取材の申込について)

委員 地元の団地は J:COM を 2 年前に導入したが、毎度、自治会新聞にて J:COM チャンネルの告知を行っている。ただ、11ch の J:COM チャンネルを知らない方がまだまだ多い。団地内でいかに浸透させて、視てもらうかが課題となっている。

「タなび」トピックスの取材依頼は、何日くらい前に申し込みばいいのか。

事業者 デイリー生番組「タなび」のトピックス取材申込は、放送日の2、3日前の申込で可能だが、他の取材内容との関係で調整させていただくことになる。

(料金の値下げを)

委員 私の周りにも最近、J:COM に加入した方がいるが、少々、料金が高いのではとの意見がある。加入促進のためにも、J:COM の料金体系をもう少し安くして欲しい。

以上